

キャラクター名  
狗飼幻八

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー モルフェウス		ワークス	FH	エージェントA	カヴァー	喫茶店の店員
	オプション		年齢	21		性別	♂
覚醒	探求	衝動	妄想		初期侵食率	28 %	
出自	貧乏	経験	失恋		邂逅	欲望：世界を築く	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	31
肉体	3		2			5	行動値	5
感覚	2		0			2	(非装備時)	5
精神	1		0			1	戦闘移動	10
社会	2		0			2	全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	5		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志		-5	調達	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：FH	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：ガランサス	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：裏社会		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
クロススラスト	白兵	5r+3	2	10		対象はリアクションダイス-1個
その心にお別れを<オルヴォワール>	白兵	8r+3	2	10+10+2D		侵蝕6。攻撃20+2D+水晶分。水晶前提全乗せ
その心にお別れを<オルヴォワール>@100	白兵	9r+3	2	10+12+2D		侵蝕6。攻撃22+2D+水晶分。水晶前提全乗せ

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
クロススラスト	
コネ：情報屋	
ウェポンケース	

合計装甲： 0    合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
強化兵<バーサーカー>	P	N		
昇華)“ガランサス”	P	感服	N	不快感
猫庭彩楓	P	執着	N	偏愛
暁夜一	P	連帯感	N	嫉妬
阿蘇野七生	P	有為	N	不信感
コニユウム	P	同情	N	憐憫
昇華)UGN	P	同情	N	隔意

最大財産P: 8    残り財産P: 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
氷の回廊(5)	1	1	マイナ	至近	自身	自動	-	
効果： 飛行状態で戦闘移動を行う。移動距離+[LV*2]m								
コンセントレイト：サラマンダー(3)	2	2	Xジャー	-	-	-	-	
効果： C値を-LV								
炎の刃(5)	5	2	Xジャー	武器	-	対決	-	
効果： 攻撃+LV*2								
カスタマイズ(3)	3	2	Xジャー	武器	-	対決	-	
効果： ダイス+LV								
水晶の剣(3)	3	4	Xジャー	至近	※	自動	-	
効果： 武器1つ選択。シナリオ間、武器の攻撃力を+LV*2。シナリオ3回。								
テクスチャーチェンジ	★	-	Xジャー	至近	自身	自動	-	
効果： 機能を維持したまま物品の外見を変更する								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

いぬかい げんや  
俺/あんた。ぶっつきらぼうに淡々と喋る。一応基本的は普通の人間に見えるはず。

少々やんちゃに生きてきた学生時代。  
中学生の頃、近所を通学していた高校生のお姉さんに憧れ、ちょっと背伸びした進学校に入学することに。  
意を決して告白をしたものの、「まずはお友達から」にすらならず、先輩達に笑われながら2年間を過ごすことになる。  
彼女たちが卒業し、高校に通う意味も見いだせなくなったことから早々に退学した。  
社会から切り離されていった上、実らなかつた「恋心」というものそのものに異様に執着を残している。  
しかしその一方で、年上に笑われた経験から大人の女性があまり好きにはなれない。  
退学後、他人からの愛を求めては、何か違うと感じながら通り魔紛いのことを繰り返していた。  
傷付けるだけで気が済んでいた時期もあったという間に通り過ぎ、とうとうひとりの見知らぬ人間を殺める。  
ショックを受けられないことにほんの少し驚きはしたものの、人の命とはこんなものかと諦めにも似たものを覚える。  
求めていた「愛」とは、こんなに簡単に消えてしまうものなのか。

——ここで終われば平和だったのだから。  
しかし彼の足下に、カランと何かが落ちる。  
レネグイドを帯びたその刃物に、まるで語りかけられているかのような——そんな錯覚。  
この刃を手にとれたら、扱えたら。  
別の形の、壊れない愛の形を手に入れられないだろうか。

凍てついた心で、凍てついた刃を操る。  
愛の形が金額に乗るのではと考えた時期もあり、依頼を受ければその報酬に応じてなんでもやってきた。